

優秀賞

積水ハウス株式会社

積水ハウスでは、持続可能な木材利用の促進や国内林業の活性化に向け、環境 NGO や多くのサプライヤーとの連携を通じ、環境に配慮し社会的に公正な木材「フェアウッド」* の調達を推進している。

※ (財) 地球・人間環境フォーラムと国際環境 NGO FoE Japan より 提唱されている概念

● 持続可能性を考慮した 10 項目の調達指針

積水ハウスの「木材調達ガイドライン」においては、合法性、地域社会への影響、生物多様性の保全、地球温暖化防止、資源循環の促進などの観点から 10 項目の指針が設定されている。これらの項目ごとに木材の評価（採点）が行われ、合計点に基づき評価が高い順に S、A、B、C の 4 段階のランク付けをし、より上位のランクの木材の調達に努めている。

ガイドラインの策定にあたっては、国際環境 NGO FoE Japan の協力を得ながら、環境・社会的側面と事業的側面のバランスにも考慮し検討を行った。またガイドラインの運用においても、木材伐採地域の情報入手などの面で FoE Japan と連携し、国際的なネットワークを活用しながら調達木材の評価を行っている。

積水ハウス「木材調達ガイドライン」の 10 の指針

- ① 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
- ② 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
- ③ 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
- ④ 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
- ⑤ 消費地との距離がより近い地域から産出された木材
- ⑥ 木材に関する紛争や対立がある地域以外から産出された木材
- ⑦ 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
- ⑧ 国産木材
- ⑨ 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
- ⑩ 木廃材を原料とした木質建材

● サプライヤーとの連携を重視

住宅産業は様々な建材、部品、設備等のメーカーで構成されるサプライチェーンにより成り立っていることから、

積水ハウスでは「フェアウッド」の調達推進においても、サプライヤーとのコミュニケーションと連携・協力を重視している。

2008 年には、主要木質建材のサプライヤー 61 社（約 100 名）の参加により、「木材調達ガイドライン」の説明会を開催した。この中では、「フェアウッド」調達の背景や考え方、ガイドラインの詳細な内容などを説明するとともに、取り組みへの協力を要請した。こうした対応により、サプライヤーからの自発的な提案や調達木材の評価依頼などが増加している。



フェアウッドの意義をわかりやすく伝える絵本



主要木質建材サプライヤーを対象とする「木材調達ガイドライン」の説明会

さらに、「フェアウッド」調達に関する一般生活者への啓発活動の一環として、なぜ適正な木材調達が必要なのかをわかりやすく伝えるための絵本「クララのもり」を制作し、同社の展示場や環境関連のイベントなどで配布している。

● 森林認証材、国産材の採用により、調達レベルを向上

社内の取り組みおよび外部との協力により、「フェアウッド」の調達は着実に前進している。2007 年度に同社が調達した 37.4 万 m³ の木材のうち S ランクのもの 41% を占めており、前年度に対し 11% 増加した。

具体的な取り組みとしては、フロア材の芯材に関して、絶滅危惧のリスクが高い樹種から森林認証材への切り替えを進めており、フロア材の大半が森林認証材となっている。また、国内林業の活性化やウッドマイレージの視点から、木造住宅「シャーウッド」の構造材や合板などの一部で国産材の採用も進めている。

積水ハウスでは、今後も NGO やサプライヤーとの連携を強化し、「フェアウッド」の調達をさらに拡大させていく考えだ。